



～若き心 集まるところ～ No.6

茅ヶ崎市立鶴が台中学校長 力石 裕司

夏休みが終わりました…新たな気持ちで！

4日間という長い夏休みが終わり、今日から通常の学校生活の再開となりました。夏休み期間中、子どもたちはどのような毎日を過ごしていましたか？夏休み前の生活と異なる日々を過ごす中で、少しずつ変化や成長があったはず。毎日一緒にいるからこそ保護者の皆様が気づきにくいその“変化”は、44日ぶりに会う仲間や教職員が気づくこともありますので、夏休み期間中にご家庭で気になったことは、遠慮なく担任や学年職員等に伝えてください。今日から再開した学校生活の中での教職員の気づきも、担任等から機会を捉えてお伝えさせていただきます。今日から新たな気持ちで学校生活を再開した全ての台中生の「心の笑顔と成長」を支えるパートナーとして、私たち教職員も保護者の皆様とのチームワークをさらに高めていくスタートにしたいと思えます。



今日の集会では、7月の集会で話した「誰もが気持ちのよい挨拶ができる学校づくりに向けて一人一人の意識を高めてほしい」ことや「元気に登校してくれたことへの感謝」を伝えるとともに次の話をしました。

パリオリンピックを観て思うこと・・・

パリオリンピックが閉会しました。私自身、幼少期から野球、水泳、バスケット、テニス・・・と様々なスポーツに親しみ、部活動の顧問としても、ソフトボール、テニス、野球、卓球と関わってきましたので、オリンピックたちの姿に寝るのも忘れて熱中していました。

6月末の部活動激励会では、「日本一にならない限り、最後は負けて終わり、『悔い』は残る。それを次のステージで生かすことが大切。最後の瞬間にこれまで支えてくれた全ての人たちへの感謝の気持ちをもってほしい」と伝えました。オリンピックでは、私たちでは想像できないほどの努力で勝ちとったオリンピック出場の喜びとメダルの期待に対するプレッシャーの中、結果を出せた選手は「応援してくれた皆さんのおかげです」と話す一方、メダルが獲れなかった結果に泣きながら謝る選手もいました。

試合後のインタビュー等からは学ぶべき姿が多くあります。皆さんは誰のどんな姿や言葉が印象的でしたか？私は、結果を出すことができなかったレース後のインタビューでは「頑張ってきた分だけ無駄だったのかな・・・」と涙を流していた水泳の池江璃花子選手の帰国後のインタビューでの言葉に特に心を動かされました。

『自分のためではなく、誰かのために頑張ることが好きなのだと改めて気づきました。』

競技者としても世界のトップレベルとなっていた数年前に白血病を患い、そこからオリンピックに再度出場するまでにどれほどの挫折や苦しみがあったのか。病との壮絶な闘いの中でさえ、『誰かのために』と頑張りを続けた彼女の言葉から、人はどう生きるべきかを改めて考えるきっかけとなりました。



パリではオリンピックに続き、パラリンピックが開催されています。茅ヶ崎出身のアスリートの活躍も楽しみですが、生徒の皆さんには、一つのことには本気で取り組んできたアスリートたちの姿や言葉に注目し、何かを学ぶチャンスにしてほしいと思えます。

茅ヶ崎市いじめ防止サミットに生徒会本部役員が参加しました！

8月27日(火)、毎年行われている「茅ヶ崎市いじめ防止サミット」に生徒会本部役員の2名の生徒が参加しました。今年度もオンラインでの開催で、鶴が台小学校へ行き、6年生の児童と3人のグループでの参加となりました。はじめに教育委員会のスタッフによる、一人一人の心の状態をコップに入った水に例える「心のコップ」の話や香川小学校、松浪中学校のいじめ防止のための取組についての発表を聞き、後半では、グループでのワーク、参加している市内全ての学校の各グループでの協議内容を共有する時間もありました。終了後に聞いた、参加してくれた2名の生徒の感想は・・・

*参加した生徒の
写真が入ります。

・いじめがダメなことはわかっていただけ改めて気づくことができ、それをいろいろな人に伝えていけたらいいなと思いました。そのためにできる活動を考えていきたいです。

・「心のコップ」の話は初めて聞きましたが、鶴が台中学校の多くの人たちと共有したいです。

二人の“伝えたい”という思いを受け、二人の“学び”を何らかの形にして、鶴が台中学校が、いじめのない誰もが安心して生活できる学校になるための取組につなげたいと考えます。

いじめがよいことだと思っている人はいません。それでもいじめはなくなりません。いじめで苦しむ生徒を出さないためには、『いじめはよくない』ということ発信するだけでなく、いじめが起きにくい環境を作っていくことも大切です。そのような誰にとっても安心できる環境づくりの土台となるのが「あいさつ」です。日頃から、「校歌日本一」に続き、「あいさつ日本一」を目指していきたいと考えていますが、今回のいじめ防止サミットでの市内の児童・生徒たちの様々な考えを受けて、校長として、学区の小学校2校とともに、「あいさつ日本一の地域(中学校区)」を目指したいという大きな夢が生まれました！

後期(10月18日)から給食(デリバリー方式)が始まります！

すでにお知らせしているところですが、後期から本校でも給食が始まります。各ご家庭には茅ヶ崎市教育委員会から給食予約システム利用案内の一式が届いていると思いますが、お申し込みはお済みですか？

本市の中学校給食については、2019年から検討が進められ、今年度と来年度の2回に分けて、全ての中学校での実施となります。中学校の3年間、心も身体も大きく成長する大切な時期であるため、栄養バランスが考えられた給食は、生徒の「成長」を支えるものになります。あわせて、生涯にわたり、自身の健康維持に努め、豊かな人生を送っていかれるよう、「食育」の充実にもつながるものです。さっそく、9月9日(月)には、全校生徒対象に、株式会社明治の管理栄養士による「食育講演会」を開催します。各ご家庭におかれましても、これを機に、毎日の食に関する会話が增え、生徒たちの健康維持や食への関心が高まることを期待します。



教頭先生のつぶやき・・・

夏休みに東京都にあるみずほ証券株式会社で3日間の民間企業研修を受け、日頃学校現場では経験できないことを多くさせていただきました。

近年、学校教育に取り入れられている金融経済教育を学ぶ必要性や金融・証券会社の役割など、これまで専門分野である理科の勉強しかしてこなかった私には、新鮮な内容でした。

特に影響を受けたことは、企業における働き方改革の現状で、一定時間を過ぎると強制的に消灯になることや作業効率を考えた多くの取組を紹介していただいたことです。今後、学校の働き方改革を進める上で参考にするべきことを学ぶことができた時間となり、何歳になっても学ぶ姿勢を忘れてはいけないと痛感する研修となりました。